

・全国よい仕事研究交流集会2018・

12:30~13:45

みなさん、おつかれさまです。毎年恒例の全国よい仕事研究交流集会まで、あとわずかとなりました。今年も地域ごとの研究集会在開催され、そこから推薦されたいのちと社会に向き合う現場での協同労働の実践が60本寄せられています。

また記念講演には内山節さんにお越しいただき、よりよい社会をつくるために、協同組合の連帯で社会の土台を作っていく重要性を伺います。

法制化を目前に控え、協同労働の実践を深め、学び合い、地域に発信していくことは極めて重要であり、組合員はもちろんのこと、地域で共に活動している方や今後活動しようと考えている方々にも広くお伝えし、ご参加いただければと思います。一人一人が行動する主体的に学ぶ集会づくりをお願いします。

15:45~17:15

映画「ワーカーズII」(仮称) 上映 監督: 森康行氏
東北被災地における協同労働の仕事おこしの実践を描く

17:15~17:35

～地域課題解決のための
ワーカーズコープづくりに挑戦する地域報告～
〈遠野いっぱいぽの会〉
子どもの居場所を考えるフェスタ「障がいをもった子どもの居場所の必要性をずっと市に訴えてきたが実現しなかったが、ワーカーズと出会い話がとんとん進んで驚いている。」と2ヶ所同時に放課後等デイ立上げを住民主体で進める。
〈並柳団地自治会〉
団地で障がい者・ひとり親・外国人・高齢化が進む。地域再生PJに35団体が入り、全戸訪問調査。生活支援部隊、サロン、ワーカーズと共になみカフェも運営。協同労働に共感し、コミュニティ発のワーカーズコープづくりが始まる。

14:00~15:30

リレートーク (パネルディスカッション改め) 「いのちと社会に向き合う協同労働・よい仕事とはなにか ～居場所-自らのくらしと地域を共につくる～」

〈宇都宮地域福祉事業所サンアピリティーズ〉

指定管理、初任者研修、日中一時、居場所づくりから仕事おこしへ



〈大野城事業所〉

なないろの種 (現ほっとのたね)
みんなの居場所から

フリースクールの立ち上げへ

児童発達支援

不登校の子ども
の居場所



地域高齢者の居場所
就労継続支援B型

引きこもりの青年たち
はたらき隊の活動場所

子ども食堂・地域の居場所
フードバンク・子どもカフェ

記念講演「ともに生きる世界—いのちと社会を結んで」
講師 内山 節氏 (うちやま たかし)



◆内山節氏 プロフィール
1950年東京生まれ。哲学者。前立教大学教授。NPO 森づくりフォーラム代表。1970年代から東京と群馬の二重生活を続ける。全国協同集会2012年に登壇いただく。

◆主な著書
「半市場経済」「いのちの場所」(いずれも2015年)

農業協同組合新聞 (2017年1月3日)

「人間が生きる世界 再創造への協働を」内山節氏 (哲学者)

世界では市場経済の行き詰まりが起きていて、どこの国でも思うような経済成長が実現できなくなり、格差や下層階級が発生。

悪あがきの経済成長追求は世界の経済構造自体が変わり、成長時代を回復することはできない。かつての社会や地域は、人間たちの生きる世界、経済や労働、地域社会や文化が一体的に結びついてきた。協同組合の連帯で、みんなで守り合う経済活動や社会やみんなの生きる世界を守っていく、社会の土台作りを。(一部抜粋)

〈地域福祉事業所 Workers Net Rings〉

「排除の無い現場づくり」から
「誰ひとり取り残さない事業所」

清掃・物流よい
仕事コンテスト
優勝!!

～事業所スローガン～

「NO 排除、NO 支援、NO 援助」
「既存のルールに乗る努力よりも
新しいルールを創る苦勞へ」
「花よりも、花を咲かせる
土となろう」



〈ふじみ野地域福祉事業所〉

2011年度よりふじみ野市指定管理者として市内8ヶ所の放課後児童クラブを運営し、2015年度より同市福祉部福祉総合支援チームの中で生活困窮者自立支援の業務等を受託し実施している。生きづらさを抱えた若者を自立相談支援から協同労働の現場での就労につなげ、いのちとふれあう仕事に生きがいを見出せたケースについて、その後、障がいの有無と就労の可否を結びつけて当事者の意志に反した判断が下されることとなった。理不尽な差別や排除をなくし、誰もが主人公となって暮らし、働けるまちづくりとは何かを考える。